

地域懇談会実施報告書

- ◎自治会名 南原町
- ◎開催日 平成 24 年 5 月 23 日(水)
- ◎時間 19:00 ~ 21:10
- ◎開催場所 南原町公民館
- ◎参加人数 32 人
- ◎懇談内容 別添 会議録



行政側参加者氏名

庶務課市民活動支援係 竹村 静哉
勝野 和子

庶務課秘書係 横山 雅史

記録者氏名

庶務課市民活動支援係 勝野 和子

南原町地域懇談会会議録

平成 24 年 5 月 23 日(月)19:00～

南原町公民館

1 開会 南原町自治会長

2 自治会長あいさつ

今回の懇談は2か月くらい前から計画し皆さんに回覧を回して参加を呼び掛けた。本日は 40 名くらい参加していただける予定である。大勢の皆さんに参加していただいたことに感謝申し上げます。

今日は市長から市の取り組む方向についてお話をいただいた後、市に対する課題、例えば、介護保険、国保の問題、高校再編の問題、高速道路の問題等、皆さんから積極的に質問をいただき、市長から話を聞くという形で進めたいと思う。時間は9時までの予定。意見はどんなことでも構わないので遠慮なく出していただきたい。

それでは、6月定例会前の忙しいところだが、初めに市長から市の状況等をお聞きした後懇談したいと思うのでよろしく願いしたい。

3 市長あいさつ

今日は大勢の皆さんにご出席いただきまず御礼を申し上げますと同時に、ご準備に当たられた自治会長はじめ役員の皆さんに感謝申し上げます。従前は市の部長以下大勢出席して大町地区全体で意見交換会をしていた。参加したのは自治会長、育成会の会長、老人クラブの役員というそれぞれ役職についている方が中心で、あらかじめ質問を出していただき答弁を用意して部長がお答えする形だった。私が就任して1年目はそういう形で行っていたが、それでは直接市民の皆さんの声を市政に反映することは難しく、私が各地域にお伺いして生の声で意見のやり取りし、市政の取り組みについて話をするということでスタートした。満5年がたち延べ 100 ほどの自治会にお邪魔した。議会のような紋切り型のやり取りでは十分ではないので私一人で伺っている。その中で、お答えしきれない部分については持ち帰って、必ず担当部課と相談し自治会長さんを通じて皆さんにお答えしている。今日は最初に 20 分ほど時間をいただいて当面している課題についてお話したい。

最初にお礼から申し上げたい。南原町の皆さんには大町病院の運営について一番ご近所で心配をいただき、また環境整備等でご協力いただき感謝申し上げます。先週の土日に大町病院祭を開催した。昨年と同じ時期に開催したが台風の余波で大雨になり 2,000 人の来場者だった。今年は天気の良いこともあり今年の 1.5 倍の 3,000 人の皆さんにお越しいただいた。近くで支えていただいている南原町の皆さんのお力添

に感謝申し上げます。その中で特別講演として大町市にもご縁のある仁科亜希子さんに講演をしていただいた。仁科さんは闘病生活により女性特有のがんを克服した経験をお持ちで、がん撲滅の取り組みを今もされている。大町病院は内科を中心に脳外科、整形外科などで医師が足りないの、医師確保に努力をしていきたい。おかげさまで 23 年度決算で黒字になってきた。ここ十数年間ずっと赤字であったことを考えると、何とか再生に向けて手がかりがつかめたのではないかと考えている。御礼を申し上げます。

もう一つ報告で、東洋紡の跡地はホクトが立地して 10 年近くなる。その後なかなか 2 つ目の会社が見つからなかった。ようやく大阪に本社のあるエア・ウォーターという水を製造、販売している会社が 4 つ目の工場を大町に立地することになり、先般 4 月 27 日に議会と相談の上発表した。東洋紡の跡地には生きている井戸が 5 本あり、東洋紡はかつてその井戸から 1 日 1 万 t の水を使っていた。その井戸の一部を活用して、1 日約 120 t、今後増産ということになると増えていくことになるが、1 万 t のうちの 120 t の水を活用して首都圏を中心に全国に販売する事業を開始することになった。今年の 9 月くらいから工場の建設に入り、来年の 4 月には操業を開始するというありがたい事業である。大町の資産、財産である水を活用するというので、これからの発展に期待している。今は平ニツ屋で工場が操業を始めて 6 年になるが、当初は 10 人くらいでスタートしたのが今は 50 人もの方を雇用していただいている。同時に大町の水道水になる前の川に戻す水を工場に引き込んで成分を調整して製品にし、12ℓ、ハワイウォーター、アルプスウォーターという 2 つの銘柄で、首都圏で販売している。黄色いハワイウォーターのマークの入ったトラックと、水色のアルプスウォーターというトラックの 2 種類あるが、1 日 6 台から 10 台近く運んでいる。これからも新しく立地する工場とともに、大町の水を日本中の皆さんに飲んでいただく取り組みが進んでいくと期待している。ちなみにアルプスウォーターの水の代金は 23 年度で 2,500 万円市に入り、そのおかげで市の水道料金を上げず据え置くことができた。

お詫びが 1 つある。合併した八坂地区にある明日香荘の指定管理者として運営していた株式会社あすかの社の経営が行き詰まり、現在破産の手続きを進めている。あすかの社は地区の皆さんと市からの出資で、5,000 万円の資本金の会社だが、公共施設を運営していた会社が行き詰ったことについて、また市には出資する立場と管理することの 2 つの役割があるが、行き届かなかったことに責任を感じている。去年の 3 月の 22 年度決算では、5,000 万円の資本金のうち 2,300 万円以上あり、去年 3 月に東日本大震災があって市内の宿泊施設が大変厳しい状態で、明日香荘も市が斡旋して 1,500 万円の県の制度資金の融資を受けているので、合わせて 4,000 万円近い現金があり安定的に運営ができると考えていたが、今年の 2 月になって手形が振り出されているようで、それも悪質な県外の市中金融に渡っているという情報があり、調べてみたら事実だった。公共的な施設を運営する会社が手形を振り出すという

ことは考えられないし、去年の夏に現金として 4,000 万あったはずなのにどうなったのか、あすかの杜の取締役会や市の部長等で組織している事務調査委員会で調査をしている。ある程度解明できた中では、新聞報道等にもあるが粉飾決算をしていたということと、会計事務所の担当者が、要請され事実と違う決算書を作成することに協力していた。言い訳になるが取締役会、監査役、株主総会も悪意で隠され改変されたものについてはチェックができなかった。全体像を解明するには時間がかかり、難しい壁にもぶつかっている。何とか全体像を解明して、まず株主の皆さんまた市民の皆さん、議会の皆さんにもきちんと説明をしていきたいと思っている。ご迷惑をおかけしていることに対して心からお詫び申し上げ、今後の説明責任を果たしていきたい。

次に、市の取り組みについてお話をさせていただきたい。私が就任して6年が経った。就任時に大町市の10年間の長期計画、第4次総合計画を策定している。その前期の5年間の計画が平成23年度で終了し、成果に結びついたことと結びつかなかったこといろいろあったが、総合計画審議会という19人の市民の代表の皆さんに1年間かけてチェックをしていただいた。その結果を反映し、4月から後期5か年計画を作成した。骨子は大きく変わっていないがこの5年間に急激に変わった市の状況、環境等を反映して3つの重点プロジェクトを設け重点的に取り組むこととした。5月15日号で各戸にきらり輝くおおまちダイジェスト版を配布した。できるだけわかりやすく表現したり、絵やグラフを入れて読みやすいようにしたので、通して読むのは大変だと思うが気が付いたところ、関心のあるところだけでも読んでほしい。

今日は3つのプロジェクトについて説明したい。

1つは、定住対策。去年の国勢調査で全国的な傾向ではあるが大町市は人口が大きく減ってきている。そのためにも今まで住んでいた方にはずっと住み続けていただき、これから大町に移住して来たい方を温かく迎え入れていくような仕組みづくりをしていきたい。人口増対策として、30代、40代の方の未婚が増えていて、その中には結婚したいけれどめぐり合う機会がないという方も大勢いらっしゃるの、婚活支援の仕組みを作った。この6月2日にFM長野と市が主催して、くろよんロイヤルホテルで婚活のイベントをやることになった。男性50人、女性50人、会費は男性 6,000 円、女性 2,000 円を予定したが、あっという間にいっぱいとなってしまった。そこから結婚に向けての付き合いが始まり、大町に住み大町で子育てをしていただくようにつなげていきたい。

2つ目は雇用の場の確保と産業の振興。特に産業振興の面では、市内で一生懸命事業を展開していただいている商店や事業所の皆さんに、これからも業績が拡大できるように融資制度など使って応援をしていきたい。市内にはまだ工場の適地がたくさんある。今は日本から海外へ工場が出て行ってしまう時代だが、きちんと働く場がなければここに暮らしていくことも難しいので、なんとか企業を1社でも多く呼び込みたい。先月、大阪、名古屋方面に出かけ企業や企業を誘致する県の担当職員のとこ

ろを回って要請をしてきた。これからも一生懸命取り組んでいきたい。東洋紡の跡地は今まで何社からも声がかかり、また社長自ら見に来ていただき私も説明に出向いている。リーマンショックで会社の経営が厳しくなり、いよいよという時に大震災があり見合わせたい等、いい話になってもなかなか進まないという繰り返しだったが、今回は最後まで対応することができた。トップセールスと言うそうだが、普段はなかなかお会いすることができない会社のトップの方でも、市長が会いたいと言うとなんとか会う時間だけは取っていただけるので取り組みを進めていきたい。

3つ目はここに住んでいくからには福祉、医療が整っていることが大切である。特に若い方には安心して子育てできることが大事なテーマとなる。去年は小学校6年生まで医療費を市が全額負担する仕組みを作り、今年4月からは中学3年生まで応援することにした。これからも子育ての応援をしていかなければならないし、この地域は高齢化が進んでいるので、高齢者の皆さんも余生を生き生きと過ごしていただけるような高齢者対策にも力を尽くしていきたい。

3つ申し上げたが、1つ目は定住促進、2つ目は雇用の場の確保と産業振興、3つ目はこれからここで安心して安全に暮らしていける福祉、医療、防災対策、この3つを重点的に成果に結びつくように取り組んでまいりたい。市民の皆さん一人一人がここで暮らして良かったと笑顔がきらり輝く大町につながるように精一杯取り組みたい。市民の皆さんの市政への参加、協働のまちづくり、市役所の職員、自治会の役員さんに任せておけば何とかなるだろうでなく、皆さんが身の回りでできる小さなことから地域づくりに参画いただければありがたい。以上、簡単に申し上げたがいただいた時間となったので、先ほど自治会長さんから提案いただいたいくつかの課題も含めて質問、提案をいただきたい。

自治会長

市からの取り組みについて話をいただいた。そのほかにも課題があると思うので積極的に意見を出していただいて、懇談を進めたいと思う。

市民

市長が就任した6年前、娘が柔道で全国大会へ出場する時に市長を訪問した。その時に市長といろいろ話をした中で、市長は大町のことを考えていてくれていると感じた。応援しているので今後も頑張ってもらいたいと思う。

明日香荘のことをニュースでやっていた。市長の直接的な責任はないと思うが、何とかここは治めてもらいたいと希望する。

私が発験していることで考えていることを話したい。私は九州の佐賀県出身だが大町の女性と結婚をして大町に1ターンしてきた。実際にお祭りの役員などさせてもら

ったが南原は非常に暖かい人が多い。この人たちがいなかったら私は20年もこの町に住めなかった。年配の方も、若い人も気軽に声をかけてくれる。私は趣味として写真始めて2年ちょっとになる。写真をやっていると気付いたが、大町のことは都会の人の方が良く知っている。例えば塩尻の高ぼっち高原は、よく晴れた日は富士山と諏訪湖がよく見える非常に良い場所だが、秋にそこで神奈川と東京の方に会い話をした時に「霊松寺は今どうだい？」「木崎はどうだい？」「池田の大楓はどうだい？」と言われた。「ご存じなんですか。」と聞くと「写真の世界では有名だよ。」「大町の方はよく行くんだよ。」と言われた。また違う場所で東京の方とお話した時、大町という名前を言ったら「いいところだね。」「写真撮るところがいっぱいあるから俺は大町へ行きたくて仕方ない。」と言われた。写真を撮る人たちの間では大町は非常にいきたい場所である。

リタイアという言葉はあまり好きではないが、退職されて写真を撮っている方は非常に高価なレンズを持っている方が多い。そこで写真を利用して何か町興しはできないかと考えた。高校生に写真甲子園というのが年1回あり、北海道の東川町というところで全国から選ばれた学校が集まり4日間コンテストをする。そこに習うわけではないが、大町で写真コンテストをやってみたらどうか。賞金はそんなに高くしないでその代り副賞として大町の観光大使を1年間やってもらう。大町市で名刺を刷りプレゼントし「是非大町に人を連れてきてください。」と渡す。大使の紹介であれば温泉郷など大町の宿泊施設が半額で利用できる。大使の方は例えば年回5回は無料で温泉郷を利用できる。写真を利用してコンテストを開き全国から人を集めると、宿泊施設も利用してもらえる。写真は市民の皆さんに見てもらえるところに展示をして、皆さんに選択してもらおう。できれば地元の人に賞をあげずにできるだけ県外の人に賞をあげて、観光大使という肩書を付ける。退職した人は肩書がなくなったことが非常にさみしいことだと言うので、この肩書が喜ばれる。そして大町をPRしてもらう。工場誘致も確かに莫大なお金が入ってくるが、大町の観光に力を入れるのも1つの方法だと思う。

それから、うちの娘も埼玉栄高校に行っていて全国高校選手権で1位を取った。奥原希望さんはじめ大町のスポーツの盛んなところをもっと利用できないかと思っている。

市長

いくつもの知恵をちりばめた提案をいただいた。写真を中心に観光振興をしたらどうか、また大町の知名度をあげたらどうかというご提案だが、その通りだと思う。大町はこんなに素晴らしい環境にありながら、もともと大町で生まれ育った方は当たり前だと思っているように感じる。私も大町を離れ6年前に帰ってきた時に「やっぱりすごいな。」と感じたことを思い出す。大町の良さを市民の皆さんに気づいてもらい磨き上げてもらう努力をしてもらったらどうか。例えば美しい山というのは大町の市民の皆さん

が努力して作ったものでなく、天からいただいたものである。より大切だと思ふ気持ちが他の地域に比べて少ないように感じる。小布施町の観光施設はもともとは北斎館 1 つしかなかった。けれども栗の材で木の歩道を作ったりして皆で努力して作り上げた観光地である。だから今でも「大事にしよう。」「もっと良くしよう。」という努力が町中で行われている。大町の場合はそれに比べてまだ「きれいにしよう。」「もっと磨き上げよう。」という気持ちを市民の皆さんが抱いていないのは私も痛感している。大町の皆さんがそれに気づき、さらに磨き上げていこうということが今各地で行われているいろいろな地域づくりだと思う。そのきっかけとしてフォトコンテストというのはいいアイデアだと思う。大町市の観光協会が2年に1回位ずつフォトコンテストをやっている。これは近隣の限られた皆さんに呼びかけてやっているが、それを全国的な規模に広げていけばもっと大町の良さを引き出してくれるかもしれないし話題になるかもしれない。

去年の3月に山岳博物館60周年記念で山岳写真のフォトコンテストをやった。これは全国から応募をいただいたが、あまり専門的になると限られた方、山岳写真家を中心とした催しになってしまうので、もう少しアイデアをあたためさせていただき、大町の良さを大勢の人に発信し、市民の皆さんに気づいていただくきっかけとなるようにしていきたい。

観光大使の話が出た。大町市も今年4月から観光大使の制度を設け、大町病院祭に講師で来ていただいた仁科亜季子さんに、大町市の観光大使に就任していただいた。仁科さんはここを治めていた仁科氏の末裔と言われている。小さい時からよく大町を訪れていて、仁科さんのお父さん 10 代目岩井半四郎さんには大町の文化会館のこけら落としに三番叟を踊っていただいた。そんなご縁から第1号の就任をお願いした。黒部ダムとアルプスの2種類の名刺を「PRのためにどんどん配ってください。」と渡した。ご意見にあった副賞として観光大使の任命ということもこれから考えていきたい。大町には霊松寺など市民の皆さんのなかなか気づかないいいところが沢山あるが、そのうちの1つに鷹狩山の展望公園がある。6年前から市民の皆さんが伐採したり芝生を植えたりし駐車場も10台分位止められるが、そのうちの半分以上が県外ナンバーの車である。私も好きで平均すれば月に1回くらいのペースで遊びに行くが、「どうしてここをご存知なんですか。」と聞くと「クチコミで」「インターネットで」と答えが返ってくる。確かに大町の方より県外の方のほうが良く知っているという傾向はある。黒部ダムだけでなくそうした隠れた名所を掘り起こして、足を延して大町を味わっていただくような観光も発信していきたい。

二つ目のご提案でスポーツを観光振興に役立てたらどうかということだがその通りである。今年も中部日本女子ソフトボール大会があるが、毎年様々な大会を大町で開いている。大町の場合はスポーツ施設が整っていることや、宿泊施設も温泉郷だけで3,000人泊まれるし木崎湖温泉、民宿も数多くあり受け皿が整っているのです。そうした取り組みも進めていきたい。去年は東北地方に行けなくなった学生の合宿が一斉に

大町に来た。特に夏休みに中は観光客もあり旅館もスポーツ施設もいっぱい足りなくなり、中学校に使っていない時にグラウンドを提供して欲しいとお願いして快く受け入れていただいた。そんなことも含めてスポーツを通じて大勢の皆さんに観光客としてきていただくような取り組みを進めていきたい。おおまびょん、これは大町のキャラクターとして全国公募した。東京に在住の若い女性デザイナーが1等を取り賞金は10万円だった。お金は金額ではなくアピールする事でその人の名誉にもつながるということも頭においてアイデア凝らしていきたい。

市民

市長のご努力で工場誘致ができ本当にご苦労様でした。初歩的な質問だが、ニツ屋のアルプスウォーターは市の水を買って全額市にお金が入るとい話だが、今度のエアウォーターは井戸から水を汲むということで水はただとなるのか。

市長

現在の東洋紡の跡地は、敷地はまだ東洋紡の所有でありそこにある井戸もかつて東洋紡が自ら掘った井戸なので所有権も東洋紡のものである。エアウォーターは東洋紡から土地を買うのではなく、井戸付きの土地を借りることになる。井戸の貸し賃は東洋紡のものである。東洋紡にすればかつて井戸を掘った経費がそこに乗っかってくるということになる。市としてのメリットは、建物の固定資産税、土地の固定資産税を東洋紡からいただくことになる。創業することにより事業税、法人税が市に入る。またそこに働く人の給料を通じて所得税、また消費が地域に行き渡るということもある。水代は市に入ることはない。

市民

組み上げる水は市の資源だと思う。税金は別として市に恩恵はない。中信地域はすごい水瓶だと言われているが、関係する自治体で連携し、水資源に対する共通認識を持ってもらいたい。

市長

飲み水としていいものは世界中で貴重な資源となっている。今、中信4市で研究会を立ち上げ、地下の水であっても公共の水であるという概念に立って、無駄に使わないように今後協議することとなっている。川の水は水利権があり、法律で規制され保護されているが、地下水は土地を持っている人に権利が帰属するという大原則がある。地下水を掘ってはいけないと規制することは法律上難しい。かといって貴重な水源を外国資本が買ってしまっ、地域の人たちが使えなくなるのは困るということで、届出制にしたかどうかという議論が県で行われている。届出制にしても規制するのは

難しいが、管理をするということで国でも一部研究が始まっていて、全国の2箇所か3箇所の自治体で届出制にしている。大町市の場合は安曇野市との違いがある。例えば安曇野市では、わさびの栽培のため地下水を使っていて地下水が減ってきている。量だけでなく冷たくなかったということも言われている。その原因として、例えば安曇野市で創業している工場がその機械を洗うため相当の水を汲み上げていることや、休耕田が多くなり水が張られなくなったため地下浸透する水が少なくなったことがある。また農業用水路が、昔は自然の水路で水が染み込んでいたが、今は U 字構で水が漏れないようになっているため水が染み込まないようにしている。そんなこともあり安曇野市内では水を汲み上げて利用している人と、従来通り利用している人の間で利害の差が出てしまい、調整するための条例づくりの検討が進んでいる。一方大町では、いくつかの工場もあるし家庭でも井戸水を汲み上げて使っている方もいるが、井戸水が枯れるということは起こっていない。大町では、従来の井戸を使って工場を誘致したいという安曇野市とは違った課題もあるので、安曇野市のように水を汲み上げることを規制するとか、新たに井戸を掘ることを禁止するとかいうことは具体的なテーマにはなっていない。大町では主要な水道水源は7つあるが、すべて自然の湧水で空気に触れる前にパイプで配水池に運び、一番薄い殺菌処理をして家庭に配っている。大町市は水をろ過する浄水場がない。そうしたおいしい水を私たちの地域の資源として大事にしていくという別の使命がある。

市民

ごみ焼却場の問題だが、今は近くにあり大変助かっているがそこがダメだとすると他に新しい方向性が出ているのか。

市長

ごみ焼却の新しい施設の問題では大変ご迷惑をおかけしている。この6年間様々な試行錯誤の中で2回候補地を絞り込んだが、地元の皆さんの合意がいただけなく断念し、9月までに引き受けてもいい自治会に手を挙げていただくため、市内でも勉強会を開いているところもある。山下地区にある市の環境プラントは、施設を建ててから20数年経っている。耐用年数は決まっていないが、徐々に老朽化が進んできて、修繕費が年間1億円くらいかかるようになってきている。そうした意味でもできるだけ早く新しい施設に移りたいと考えている。地主の方に了承を得れば、法的にはそこに立地できるが、建設にあたって建設後運転していく上にも周辺の自治会の皆さんには協力してもらわなければならないので、自治会の皆さんの合意をいただくということで調整を進めている。現在の青島地区の施設もそうだが、ばい煙やダイオキシンなどで周辺に公害や健康被害を起こしていることは全くない。大都会では、住宅地、マンションの隣、駅前に立っているところが普通にある。だから大町もどこでもいいという

わけではないが、周辺の皆さんの感情的な問題もあるのでそれも含めてできるだけ影響のないところに立候補していきたいと考えている。大町の処理施設は、ごみの量が少ないため近隣に比べると非常に規模は小さい。大町市と白馬村、小谷村で広域の処理施設を造ることになっている。長野県全体でもほとんどが広域で造っている。隣の安曇野市では大王のわさび農園の隣に施設があるが、これは能力150t、島内にあるラーラ松本が250t、大町は40t、はるかに小さい。ごみは市民の皆さんにも協力いただき分別したり、市内の小中学校で出る生ごみは集めて八坂の市の施設でたい肥化して、燃やすごみをできるだけ少なくしている。40tという規模は今よりさらにごみの減量化を進めて間に合う規模としている。大町の施設も白馬、小谷の施設も老朽化してきているので、できるだけ早く皆さんの合意をいただいて新しい施設を建設していきたい。今日の時点では場所の目途は立っていない。

市民

ごみを出すとき毎回分別に迷う。環境プラントでこうしたほうが良いとか、これは違うということが住民に返ってくるというと思うが、そういう課題等はないか。

市長

大きな課題はない。2年くらいかけ各自治会の衛生部長はじめ市民の代表の皆さんが入って議論を重ね、分別のしくみ作りがスタートした。そうしたことから、分別が不徹底ということはよほどのことがないという。分別できていないごみについては、委託の収集業者が回収しないことになっているが、回収されないごみはほとんどないと聞いている。逆に資源物の回収は、自治会の皆さんにしっかりと立ち会っていただいて分別している。びんも色によって分別しているが、分別は全国にも例がないほどしっかりと徹底されていると聞いている。ペットボトルも中をきれいに洗い、不純物がないように出していただいているので、大町のごみは品質が良く優良で引き取っていただいている。去年、おとしと全国リサイクル協会で表彰をいただき、おとしは400万円バックされ、半分は市の衛生業務に使い、残り半分は各自治会に還元した。市民の皆さんのご理解とご協力でこうした表彰を受けた。感謝申し上げます。

市民

ごみは分別が徹底して本当に燃えるごみしか燃やさないということで、これは公害が出ないということになる。東京あたりでは当然町中になる。公害が全く出ないということになれば東洋紡の跡地も可能である。周辺にプールやグラウンドを造るなどの条件を提供し、建設するのも1つの方法だと思うがどうか。

市長

その通りで、法律の規制でいけないという場所はない。三日町の候補地を絞った時、自薦、他薦で挙げていただいた中に、東洋紡の跡地も候補の1つとして挙がった。しかし東洋紡の跡地は、市街地に一番近く通勤にも便利ということで、工場を誘致したいという市の計画があり選考から外れた。ごみの燃える時はダイオキシンが出る。燃える温度が低い時には特に発生しやすい。バグフィルターという炉布でダイオキシンを吸収しているので煙突から出る時にはダイオキシンは排出しない。そういう意味ではどこの場所でもできるが、心理的にも問題のない場所に造りたい。その地域が発展することも考えて、地域の利便施設や振興策も併せて一緒に提案してほしいとお願いしている。例えばスポーツ施設を造ってほしいと提案があれば、実現するよう努力していきたい。

市民

黒部ダムは知っているが大町市は知らないということを目にする。その辺のPRをどう考えているか。

市長

ご指摘の通りで、年間100万人の方が黒部ダムを訪れ大町市を通っている。実際に大町市という名を認識しているかというそうでない方もいる。黒部ダムは知っているが、その玄関口だということは知らなかったということも私も何人からも聞いている。大町市という名前が、どこにもありそうなので認知されにくいのではないかとすることも聞く。軽井沢、小布施、安曇野は耳に残る名前。大町も名前を変えたらという議論もあったと聞くが、愛着のある名前なので市の名前として変えるわけにもいかない。例えば観光ポスターには「しなののおまち」と徹底して使おうとしている。できるだけ大町を地名として認識してもらうことと地域を知ってもらうことで、名前もセットで覚えてもらう。観光PRだけでなく様々な機会に情報発信をして、大町という名前を知っていただく努力はしていかなければいけない。私の名刺は、斉藤清さんの鹿島槍に万作の花が咲いているもので、これを差し出すと「すごい山ですね。写真ですか。」「いやこれは絵です。」というところから大町のPRをしている。市の職員はじめ市民の皆さんも、できるだけ大町の名前を知っていただくような取り組みをいただければありがたい。まだまだ情報発信が弱いと認識している。

市民

病院祭で仁科さんを大使にしたことは大変良いことだと思う。名刺を2種類配ってPRしてもらうということだがそれだけか。せつかくこの土地を500年間も統治されてきて信玄や平清盛の血も引いている人に大使になってもらったのだから、東京や大阪で市長と一緒に、そばでも山菜でもいいのでかつて宮崎県知事がやったような計

画はないのか。そばは大町では百何十トンと作っているところがある。常盤でも余っている。大町病院祭でも小池先生が話されたが、そばは放射能に汚染されにくい。稲わらや麦わら、しいたけは汚染されやすいがそばは被害が少ない。大町で余っているそばを仁科さんに売り出してもらえば、仁科さんの知名度も上がるし、恥をかかせることもないと思う。

もう一つは、豊科から白馬までインターを降りて1時間かかるが、その間トイレがない。トイレはとても大事だと思う。高速道路はだいたい10分から15分でトイレがある。これは20年前から大町に言い続けているが実現されていない。木崎も青木も中綱も屋根があって休憩ができてトイレがあるところがない。そうしたところをきちんと作らないと観光都市とは言えない。是非お願いしたい。

市長

3つの提案をいただいた。まず観光大使だが、仁科さんに第1号に就任いただいた。続いて就任を考えているのは、わさびの刺激で耳の不自由な人が寝ていても目が覚めるといふ、イグノーベル賞という賞を受賞した田島幸信さん。これはノーベル賞とは違い、ユニークで一生懸命考えられた研究に与えられる国際的な賞である。田島さんは、社閨田がお母さんの生まれたところで、大町に何回も来ていて大町が第二の故郷であるということで、この方をお願いできないかと考えている。仁科さんに大町でイベントのある時は来てほしいと言っても現役の女優さんなので難しい。もちろん機会があれば来てもらおうし、東京でイベントのある時は来てもらおうよう考えていかなければいけない。

一方で観光大使だけでなく、大町の観光協会では横浜や名古屋で観光キャンペーンを何回もやっている。その時に私自身もトップセールスで合流して行くことも考えていかなければいけないが、東国原知事のようなタレントとは知名度でかなわないと思う。去年の取り組みとして大町市を知ってもらうために旅行の雑誌や週刊誌、新聞社の旅行担当者、あるいは旅行エージェント、バス会社、観光業者に集まっただき、東京のレストランを借り切りメディア懇談会をやった。その時に直接私も行って大町の魅力を話したが、そうした人たちは大町の事情はたいがい知っているが、そこまで大町が取り組んでいるなら応援しようということもあったのでこれからも続けていきたい。これからも観光大使の方の力を借りながら努力をしていきたい。

来年は黒部ダム完成50周年。次の年が関電トロリーバススタート50周年になるので、今年から3年間かけて黒部ダムを軸とし観光宣伝を強化していく。その第1弾として、映画黒部の太陽のノーカット版3時間15分の上映をさせていただいた。チケットが1週間で売れて長野市、松本市から300人くらいずつ来てくれるくらいの評判だ。市民の皆さんで見られなかった方がだいぶいて、6月17日に2回目の上演をすることになったが、そのチケットも4日間で売り切れた。秋には東京方面から観光客の皆さん

にバスで来ていただき、大町で黒部の太陽の映画を見て市内に宿泊し、翌日黒部ダムの実物を見て帰っていただく。それを7日間にわたり、800人ずつ、計5,600人の方に来ていただく企画をしている。人の目につくPRをしていきたい。

2つ目の提案のそばだが、市内では休耕田でおそばを作っている方が大勢いる。大町のそばは、高冷地で作るため品質が良いと言われてだいぶ良い値で取引されている。美麻地区で作られているそばは、ほとんど新行で使われている。泉のあたりのそばは一部美麻で使われていて余っていることはないと思うが。

市民

うわさだが、戸隠にいとっていると聞いた。それだけ大町のそばは大したものである。放射能の汚染も少ないようなので是非活用してほしい。

市長

腰原市長の時代から、大町そば処構想という大町の地粉を使ったそばを、できるだけ多くの店で提供していただいている。今20軒近い店が参加しておいしいそばを提供しておりこれからも続けていきたい。先週北信越5県の市長会が南魚沼市であり、市内の3つの酒蔵の中で、八海山という有名なお酒の酒蔵へ見学に行った。その時、大町から来たと言ったら杜氏さんから「大町の美山錦をずいぶん使っている。」と言われた。新潟で一番おいしいお酒を造るのに、大町のお米をたくさん使っていると直接聞いて、大町はお米もおそばもおいしいと実感した。

3つ目の提案のトイレだが、豊科インターから北に新しいインターチェンジを造り、そこから高速道路に準ずる道路を造りたいということで、安曇野市から説明会が始まった。一般道路では、松川や白馬、大町ではぽかぽかランドに道の駅がありトイレもある。早くルートが決まりトイレを整えていくというのがテーマである。現在、市内では無料の公衆トイレを何カ所も造っている。温泉郷の入口、大町ルートの途中JAの脇にも市のトイレがある。街中では商工会議所の一角、駅前、大糸線の駅では安曇沓掛、常盤、南大町、信濃大町、北大町、築場に設置している。観光バスはよく知っていて小さいトイレだが利用されている。まだ大勢の皆さんに知られていない。

市民

知られていない。標識が足りない。

市長

ただ、トイレの看板を大きくすることに対して逆の意見をいただいたことがある。しかし目につくよう工夫していかなければいけない。

市民

きれいに管理しないとイケない。今男子トイレは水を使わない、臭いの出ないきれいなトイレを造っているところがある。

市長

この辺では中条の道の駅のトイレの男性トイレは、御影石を磨いていつ行ってもきれいになっている。そうなると用事がなくてもお手洗いだけでも寄りたくなる。臭いの出ないものを用意する必要がある。

市民

以前下水道の問題で、接続の問題のほかに負担金未納の問題があり、他にも病院の未収金、国保税の未納など税全般の滞納状況を市長のわかる範囲で聞きたい。税の未納は国民の義務としても問題だが、先日固定資産税の通知が来て評価額がかなり下がり市の収入も心配である。

市長

去年の市税の未納率は2%未満だが、それ以前の未納については滞納整理をしてもなかなかお支払いいただけない。今具体的な滞納額は手元にはないが、相当悪い数字となっている。ただよその市町村と比べて多いかというところでもない。大勢の皆さんに理解いただいている方だ。また市の徴収の努力が表れていると思う。

下水道の料金については過去2回、議会でも問題になったので説明したい。下水道の本管が引かれた時、その周辺に土地を持っていた方は下水道が引かれることで土地の効用が上がるということで負担金をいただく。その負担金の過去5年から6年間の滞納整理の中で、ある1年だけ滞納整理の記録が残っていない年があり、徴収の努力を怠ったということで大町市の職員、私自身も給料のカットをした。よその市でも大町の何倍もの金額の徴収漏れが発覚した。処分を与えたかわからないが、与えなかったところが多かったと思う。もう一つは未接続の問題。接続したにもかかわらずちゃんとした申請がなされなかったり、接続業者が申請し忘れたり、市の側のチェックが漏れていたものが40件くらいあった。それについては、徴収漏れの分をさかのぼって徴収させていただくようお願いしている。だいぶ回収が進んでいるが、時効になった分については市のミスで徴収できなかったということで、これも懲戒処分をしている。

このほか病院の未収金について、しばらく前までは過去のものも含め 5,000 万円くらいあった。市民の皆さんの未収はあまりないが、遠くの方で払わない方がいて、徴収を専門に請け負うコンサルティングに委託するようになり、過去に比べずいぶん少なくなった。こうした努力は他の分野もやっていかなければいけない。国保税につても未収があり、強化月間でもあるのでご理解いただき納めていただくようにしている。払

いたくないから払わないというのは、一生懸命払っていただいている人に不公平である。払わなくて済むなら払わないということに繋がるので、きちんと納めていただくことで行政が成り立ち、市民の皆さんへのサービスもできるということを理解していただくよう努力していきたい。

市民

常盤は家ごとびとびで下水道が普及しているが、中心市街地は家が裏にあり、お金がかかるので引き込みができず下水道の加入率が悪いと聞かすが、どういう対応をしているか。加入率が悪いと使用料が高くなると聞いている。

市長

下水道料金が上がることが決まっているわけではないが、市の下水道経営審議会では検討が始まっている。大町市街地で接続していない方は確かに多い。理由は、家が老朽化してきて子供たちが帰ってきて新築するときに引きたいという人もいる。また本通りはお店の奥に家があり、本通りから引くととても長い距離になるということと、家が建っている下をどのように通すか、技術的に難しい面がある。本通りの両側には排水路があり、川が流れている。そこを突っ切ることをためらう方もいる。ただ皆さんが支えていただく下水道なので、なるべく早く加入していただくようお願いしている。去年から住宅のリフォーム制度を導入した。2,500万円の補助金を用意したが、7倍に当たる1億7千万円の事業費が住宅改築に使われた。住宅の改築に併せ、下水道を引こうという動きにつながることを期待している。下水道課の職員も、加入推進に一生懸命あたるている。

市民

大町病院の問題だが、患者数の減少がある。確かに人口が減ってきているのもあるが、もう一つとして大町病院から患者が離れてしまうということがある。実際に私もその一人だ。大町病院をかかりつけにしていたが、医師の一言でやめてしまった。つい先日父親の具合が悪くなり、救急車で行ってもいいか聞いたら「来てもらっては困る。」と言われた。全部がそうとは言えないが、患者の減少の中にはそういうことある。病院の意識改革が大事だと思う。

市長

大町病院の対応で不愉快な思いをさせて大変申し訳ない。具体的な事例を市長の手紙か大町病院にも苦情を受付るところもあるので、差支えなければ具体的に教えていただければ必ず改善につなげたい。

6年前、市民の方と話をすると3人に1人は「大町病院を何とかしてほしい。」「あん

な対応ではだめだ。」という声をたくさん聞いた。市長への手紙も多かったが、今は本当に少なくなった。少しずつ変わってきたということは事実だと思うが、なお至らない点があったことに対してお詫びする。

以前整形外科の先生が肩の痛い患者さんに「年のせいだから我慢するしかないね。」と言った。治してもらおうと病院に行った患者にすればこんな失礼なことない。そのことをきちんと伝えたと先生は「そうですか。言い方が悪かったかな。」と言った。先生はどういうつもりで言ったのかというと「病気は頑張って治すが、徐々に老化しているからそんなに焦らなくていいよというつもりだった。」とのこと。先生の言葉の配慮が少し足りなかったために、助けてもらおうと病院に行った患者ががっかりしたという事例であった。先生方も、患者に話す時は真心を込めて話していただきたいと話している。看護師も同じことで、診察待ちの患者に「もう少しであなたの順番ですよ。」と言えば良かったが、「先生も忙しいから黙って待っていてください。」と言った例が過去にあった。そうしたことも含めて病院では皆で直していこうと取り組んでいる。病院は営業するわけではなく患者が選んで来るので、サービスが悪いと来なくなる。安曇病院に行ったがまた大町病院に戻ってきたケースもある。大町病院の入院食がおいしいという人もいる。行ったり来たりは事実で、原点は真心込めたサービスであることを病院のスタッフは感じてくれている。

脳外科は平成16年に安曇野日赤に集約された。脳血管疾患の手術は大町病院では対応できない。整形外科は常勤と非常勤が1人ずつ2人しかいないのでちょっとした手術は外科の先生に手伝ってもらいできるが、基本的には安曇病院が3人いるので整形外科は安曇病院に行く方が多い。一方外科は安曇病院は医師が1人しかなくて手術ができない。大町病院は3人いるので外科の手術は大町病院の方が患者は多い。産婦人科は安曇病院になく、大町病院では産婦人科と小児科に2人ずつ計4人いるので大町病院に患者が多い。それぞれ医師の足りない時代にそれぞれの得意分野を生かしていく必要がある。これから病院間で連携を取る必要がある。先ほど診察を申し込んだら断られたということだが、時間外だったか。科はわかるか。

市民

平日だった。科はわからない。

市長

場合によっては脳血管疾患か内科でも消化器内科は厳しいので、診療内容によってはそんな話をしたかもしれない。同時に医師の足りない科は、開業医の紹介がある患者を優先しているので、飛び込みの場合受けられないこともあるかもしれない。どうして受け入れてもらえないのか確かめていただければありがたい。

市民

1週間くらい寝込んだままだったが、診察してそんなに重くなければそのまま帰ってもらわなければいけない。帰ってもらうことができなければ受け入れられない。という対応だった。それはこちらとすれば納得がいかなかった。

市長

診察したうえで入院が必要なければ帰っていただくことになる。その言い方が失礼な言い方になったのかもしれない。大変申し訳なかった。

市民

高規格道路だが、とても長い間議論されてきているが一向に話が進んでいないように感じる。どうなのか。

市長

実際に工事に着手していないということでは遅れている。田中知事時代の6年間は、松本系魚川連絡道路の工事を進めてはいけなと明確に言われ、国にも申請ができなかった。現在高規格道路は整備するという方針で再度調整を進めている。豊科インターの北に新しいインターチェンジを作って、堤防道路までの3Kmほどの間は新設の道路になるという計画を県が発表して、安曇野建設事務所で、安曇野市内の地権者の説明会を10数回やっている。ご理解が得られれば実際のルートを決め用地買収に入り、後3年くらいの間には設計が始まり工事も始まると思う。そこから北は現在の堤防道路をできるだけ活用する方向である。大町市内と白馬は、バイパスを造る計画である。その場合選択肢とすれば、今あるバイパスを一部立体化して使うという案と、市の東側、又は西側を迂回する案と3つの案がある。大町建設事務所でもそのプランを比較検討している。市内では商工会議所から東側のルートが地域を分断することもなく最短で木崎に抜けていけるという提案をいただいた。議会でも採択をした。大町市のルートをどうするかは議会とも相談し、市民の皆さんの意見をもう一度聞き直して、最終的なルートを県に提案していきたい。道路を作るのはとても時間がかかる。地権者や近隣に住む皆さんのご理解をいただくのに時間はかかるが、できるだけ早く進めていきたい。工場誘致の際は高速道路からどのくらいかかるかと聞かれることが多い。だいたい市内まで30分かかると正直に言うと「30分ですか。」と言われることが多い。「どのくらいならいいですか。」と聞くと「15分。」という答えが返ってくる。高速道路から15分くらいの場所に立地するというのが最近の傾向なので、早く進むよう頑張りたい。

市民

木崎から向こうの迂回路がないので、何かあったら救急車もどうしようもないということをやわれている。できるだけ早くお願いしたい。

市長

木崎湖から中綱湖は道が 1 本しかない。何かあれば白馬まで戻り、美麻を通過し来るしかない。冬場はスキー客がありいつも渋滞している。大町建設事務所も今調査をしていて、南が着手されれば連動して大町建設事務所管内でも先に整備していく案持っている。手法については県が進めているが、地元の声も加えていただけるよう声を挙げていきたい。

市民

大町高校と北高校は合併するのか。

市長

県の考え方は、吸収でなく統合して新しい高校を造ると言っている。場所については、今の大町高校の場所が交通の便も通学にもいいのでそこを使う。基本的には全面改築に近い形で改築するというのが最新の県教委の考え方である。小体育館と特別教室棟は比較的新しいので活かすが、本館棟と大体育館は建て替える。平成28年には新しい高校としてスタートする。内容も普通高校でなく、国際的な素養を身に着けたり、進学校として相当いい学校に合格できるような分野も設ける。各種専門学校や職業選択にも対応できる幅広い教育をしていくことが骨子になっている。現在の在籍生がスムーズに移動できるように、統合により生徒の学力や学習意欲が低下することが一番困ることなので、いいカリキュラムといい先生を配置することをお願いしている。新校をめぐる市民懇話会という組織があり、意見交換の場が設けられている。そこで出た意見を県に挙げていきたい。2 週間ほど前その会議があり、地元の要望として8項目の要望を県に提案した。県もそうした要望を組み入れながらいい学校を作るよう考えている。校舎の建設はこれからなので、市民の皆さんの提案をお願いしたい。

市民

生徒が減少したから統合するという考え方は後ろ向きだと思う。高校に特色がない。何度も例に出すが、奥原さんは大町から埼玉県に行っている。私の息子、娘も埼玉県の高校の寮に入って通っている。親としては非常に負担であるが大町には受け皿がない。私の生まれた佐賀県の出身高校は、普通科しかなかったが今スポーツ科ができた。その高校の環境がスポーツに向いている環境にある。大町は柔道、バドミントンだけでなく非常にスポーツに向いている環境である。そういう科を作って生徒を呼び

込むとかソフト面で何かできないかと思う。以前岡谷高校の壬生監督と話したが、長野県の人間は非常に勤勉でまじめで工業製品など全世界に名高いものを作る。長野県では一生懸命夜中まで勉強していると「良くやっているね。」と言うが埼玉県では言わない。学校自体が特色を持っていてその学校に行きたいと子供が言う。単に統廃合するのでなく特色を持った統廃合をするべきである。県の仕事だが、それに対して市長もアドバイスができると思う。

市長

ただ統合するというのは県も考えていないし、地域も2年、3年かけていろいろな提言をしてきている。国際性豊かなとかどんな難関な学校も受かるとか提言したが、スポーツとは言っていない。それは白馬高校にスポーツ科を設け、高校ごとバリエーションをつけてやっていこうというのがテーマである。大町高校は従来の大町高校、北高にない特色を出すように工夫をしている。広報おおまちでもお知らせすることがあると思うので見ていただきたい。長野県の県立高校は、確か93あったと思う。東京都で110くらい。長野県のような小さな県で93も県立高校があるというのは普通の県では考えられない。長野県では、公立高校の役割を重く見て県民の皆さんがそれを支持してきた。生徒が増えるたびに新しい高校ができた。逆に生徒が少なくなって2クラスくらいしかない、高校としていい授業ができないということもあり、統合というのはそういう面からも必要である。ただ統合するのは芸がないので、この大きな時代のうねりがある時に特色あるもの、実際にそこで学んだ子供たちが将来生きていくうえで有意義な教育に改めていくという考え方が、長野県でも模索されている。例えば看護科が高校にあるのは臼田高校だけだった。これからはキャリア教育という面でも、子供たちの希望に沿ったものができるようなものを作ったり、中高一貫というものを作ったり、公立一辺倒だった長野県の高校も松本に新しい高校ができたり、佐久長聖が活躍するなど、高校自体も多様化してきているので子供たちにとっても選択しやすい時代になったかもしれない。高校が競い合いながら特色ある教育をしていく時代になったと私も思う。

奥原希望さんは、小学校5年から毎年全国大会に行っていて市役所によく来ていた。大宮に行く時に、北高の藤巻先生も何とかここに残らないかという模索をした。奥原さん自身もずいぶん悩んだが、全国1位になりたいということで全国1の力を持っている大宮高校に行った。暮れに冬休みだと寄ってくれた。ついこの間も全国大会で優勝し祝電を打った。地域を離れても地域の宝として応援していきたい。

市民

建築業をやっているが高規格道路は是非実現してほしい。何年もかかっている建設業組合の仲間は元気がない。建設業が潤えば大町の繁華街も潤うと思うが何か考

えはあるか。

市長

基本的に建設業は地域を支える大事な産業の1つだ。特に冬の間の除雪に一生懸命取り組んでいただいている。災害の起きた時の復旧は、建設業がきちんと経営をしていることで救われることがたくさんある。かつては総生産額の25%、1/4が建設業の取り組んでいる分野だったが、16%から18%くらいに低下しているのは事実である。地域の安心、安全を守るためにも頑張っただきたい。市の公共事業はなるべく市内の業者に請け負っていただくように発注の仕組みを作っている。ただ大規模な工事、学校の全面改築など市外の業者に請け負ってもらわないと特殊な分野は賄えないこともあるので、市外の業者に入ってもらいたい。

国、県、市全体で公共事業が減ってきている。施設整備が進んできたこともあるし、国の公共事業はできるだけ圧縮するような方針もある。民間投資が長引く不況で少なくなってきた。いろいろな原因で公共事業が少なくなっていることに心を痛めている。現在大町病院が耐震改修に着手した。今年は市役所と議会棟も改修をする。来年は山岳博物館の改修が入ってくる。地域の皆さんに事業を受注する機会を増やしていくよう努力したい。下水道の事業が完了したことが大きく響いている。その辺はご理解いただき、市としてもこれからも努力していきたい。

市民

介護保険は3年に1回改定し、今年は大幅な改定となると説明会を受け聞いた。正式に額が決まってきたが、今大北で63,000人くらいの人口で1,300人くらいの介護認定の人がいる。将来今の認定者が倍になると介護保険料は倍になる。今後も介護保険料だけで負担していくのか。今、利用者負担は1割だが、変えていかないと今後も介護保険料と国、県、市のお金だけで対応していくことになる。どう考えるか。

市長

介護保険は、利用される方の負担と介護保険料が主と考えられがちだがそれは全然違う。介護保険料を払っていない若い人たちの社会保険料からも拠出金をもらっている。そのほかに、国や県、市の負担金を出している。介護保険料の分は全体からすれば1/3くらいだと思う。若い世代の方からも出していただいでやりくりしている。介護保険は3年に1度の見直しがあるが、北アルプス広域の場合は、前回3年前の見直しの時は何とかやりくりし1円も上げなかった。今回6年ぶりに上げたので、上げ幅が大きくなったことに対してお詫びする。だからと言って3年前に少しでも上げておけば良かったかという、それは何とも言えない。上げ幅が大きくなったのは6年間据え置い

たことと、寝たきりで家庭で介護できない方が全部で 300 人くらいいる、そのうちの 80 人くらいが施設に入れなくて在宅でケアされている。特別養護老人ホームを整備することも見込んで、介護保険料を決定させていただいた。従来6段階だったのを8段階に刻みを細かくすることで負担感を公平にしてあることと、生活が非常に苦しい世帯の皆さんからは、たくさんいただかないように改定率を抑えてある。全体で介護を支えあう仕組みを作ったということをご理解いただきたい。今回介護保険料が上がることで、皆さんにご心配と不安感を与えていることは申し訳ないと思っている。いただいている介護保険料を他の事務費に充てるということは全くしていない。いただいた分は必ずサービスに回るようにしている。社会全体で福祉を支えるということであれば、もう少し国の負担を増やしてもらえるように要望している。

市民

19日に地下道の清掃を老人会、子ども育成会、PTA、約70名くらい出て行った。それだけ大勢集まってやるのは年1回だが、毎月老人クラブと子ども会、PTAで地下道の清掃をしている。大変きれいな地下道になっているので、市長も一回通っていただきたい。

市長

バイパスの草取りや大町病院の周囲もきれいにさせていただいている。とりわけ地下道は、落書きをそのままにしておくとなまち落書きでいっぱいになることがあるので、いち早くきれいにさせていただいて感謝している。地域の皆さんに公共施設をきれいにさせていただくのは本当にありがたい。できればこれからも引き続きお願いしたい。

副自治会長

閉会のあいさつの前に御礼したい。3月26日に町内に流れている河川の石垣が崩れ、市役所では内示があり大変忙しい時期だったが陳情に行った。建設課の係長がすぐ対応してくれ、農業用水を流す前に改修してくれた。ほんとうにありがたい。上に立つ人は身を以て部下を教育することが大切である。この方は本当に身を以て教育されたと思う。

5 閉会 南原町副自治会長

【終了 21:10】